



臨床医家と臨床歯科医の連携による歯周病と動脈硬化性疾患の関連性に関する統計学的検討

工藤値英子

キーワード：動脈硬化性疾患，歯周病，医科歯科連携

【目的】近年，日本人死亡者数の3分の1を占める動脈硬化性疾患と歯周病の関連に関する研究報告が増え，両疾患共が「慢性炎症」という共通メカニズムを有することが明らかになりつつある。しかし，我が国での臨床医家と臨床歯科医が連携して両疾患の関連性を検討した報告は見受けられない。そこで，我々は，近隣地域診療での歯周内科学に基づいた医科歯科連携の推進を目指して，本共同研究を企画実践するに至った。今回，その中間報告を行う。

【材料および方法】本研究への参加施設に属する，臨床医家を受診した生活習慣病患者および臨床歯科医を受診した歯周病患者を対象として，前向き多施設症例集積研究を行った。本調査に同意した患者に対して，生活習慣病関連全身検査（血圧測定，血液検査，右baPWV，左右総頸動脈maxIMT）および歯周関連病検査（歯周組織検査，歯周病原細菌に対する血漿IgG抗体価検査）を行い，歯周治療前後で歯周病と動脈硬化性疾患の臨床マーカーとの関連性を評価した（本研究科倫理委員会承認：#605）。

【結果および考察】*Porphyromonas gingivalis*に対する血漿IgG抗体価が高値であるほど，LDL-C値およびLDL/HDL比が高値を示した。歯周治療終了後，空腹時血糖値および総頸動脈maxIMT値が初診時に比べて有意に低下した。従って，歯周病が動脈硬化性疾患の進展に関与している可能性があり，また，歯周治療は動脈硬化性疾患の改善に寄与する可能性がある。今後，さらに研究サイズを拡大して，今回観察された傾向に関してより詳細に検討していく予定である。

[平成22年度 日本歯周病学会企画調査研究]